５月１５日　　比良山系　釈迦岳　　伊藤多惠子

山　名	比良山系　釈迦岳	山行名	例会
ルート	イン谷口～大津ワンゲル道～釈迦岳～リフト下道～イン谷口		
山行日	5 月 15 日	天　候	曇り時々晴れ
参加者	リーダー：伊藤　　サブリーダー：佐々木 男性：山下　森本　西川　竹原（順）佐藤（一般参加者） 女性：藤本　玉井　日野　竹原（絹）大西 合計：　12 名		

ルート概略図（略）

コースタイム

地名		時：分	地名		時：分
新田辺駅	集	6：00	イン谷口	着	14：20
	発			発	14：30
イン谷口	着	7：50	新田辺駅	着	16：40
	発	8：10		着	
釈迦岳	着	11：10		着	
	発	12：00		発	

山行報告

幸運にも雨の合間の例会となる。直前の福井合宿が雨で中止となり、参加者の確認を取るのにあわただしかった。また、春山参加者のトレーニング登山も兼ねることに。人数に変更があり、最終的に全員での車山行となる。おかげで登り始めの時間、帰宅時間ともに早くなった。

大津ワンゲル道は久し振りだったが、分かり易い道だったと思い、下見をせずに実施。記憶に残っているのは、二ヵ所。直登した短い岩壁と、むき出しの木の根だけで支えられていた部分。ところが、岩壁は思っていたのとはずいぶん違っていたし、木の根スカスカの箇所はなくなっていた。時の経過か、ルート変更によるものだろうか。

小川を渡って登山口に入る。最初は、やや平坦な道が続き、高度が稼げない。そのうち、急斜面が現れるようになり、痩せ尾根や小さな岩が見え始める。後半にさしかかって、道は少しずつ険しくなる。眼前に岩と木の根が混じり合った崖状の壁が現れた。ストックを片付けて慎重に登る。全員、元気に乗り越える。Y さんの「まだあ～？」に F さんの「後、5 分です」のきっぱりとした声が。もっとも実際には、それから 20 分ぐらいは歩いたかな。

目の前にパッと新緑の林が拡がると、シロヤシオの花が目につき始める。白い清楚な花が下向きに付いていて、まるで恥じらう乙女のよう。遠くからは青々とした葉の茂みに隠されて、目立ちにくい。アカヤシオやミツバツツジの華やかさとは程遠い。五枚葉には赤みを帯びた縁取りがあって、これも可憐だ。

釈迦岳の頂上で集合写真を撮った後、広々とした林の中でシロヤシオを眺めながらゆっくりと昼食休憩。花より団子の人も？

下りは、カラ岳に続く尾根道の途中の分岐から、旧釈迦駅に向かう道を取る。駅もリフトもとっくに消えたけど、この道は安全なルートだ。すんなりと車道に戻れた。

実は、上りのコースでは何種類もの花が見られてみんなの眼を楽しませたのだが、ここには書ききれない。個人的には、釈迦岳の目的はシロヤシオを見ることだったので、それが叶った嬉しさと感激で一杯だった。（ヒヤリハットなし）

釈迦岳感想文

竹原順治

福井合宿山行の最終日にこの釈迦岳山行に合流という計画だったが、福井山行は雨天日の連続で中止になった。もし、その雨がもう一日続けば、この釈迦岳山行も中止せざるを得ない羽目になるところであったが、CL、SL の執念で天候が回復し、絶好の山行日和になって大変うれしかった。

イン谷口の駐車場から車の間を抜けて小さな橋を渡って大津ワンゲル道に入る。緩やかな尾根道を、隊列を組んで進むと、色鮮やかなピンク色の花を咲かせた木が見える。ミツバツツジだという。尾根道と言っても両側の樹木に阻まれてあまり展望はきかないが、時折、樹木の間から右側に琵琶湖、左側に堂満岳の存在感のある山容が目を楽しませてくれた。あたりいっぱいの新緑は、登山者へのこの季節ならではの贈り物だ。所々にイワカガミの群生があるが葉だけで花はない。一週間前の赤坂山ではたくさんの逆さ漏斗状の淡紅色の花に出会えたのに、と残念に思っていると、その厚くて光沢のある葉の上に真っ白い花が咲いているのが目に飛び込んできて思わず「これは何だ、新種のイワカガミ？」と声が出てしまったが、私の家内が落ちていたシロヤシオの花をそこに飾るように置いたとのことで、全員大爆笑。思わぬところで夫婦漫才を演じてしまったものだ。道はだんだん狭く険しくなってきて、標高が 700mを超えると花崗岩むき出しの急坂が続いて息が切れてきた。そして頂上直前でイチョウガレと呼ばれる岩ザレ場の真下に到着。ストックをバックに収納してこの壁に挑む。露頭の花崗岩に巻き付いたむき出しの木の根が手掛かり足掛かりになってくれて登って行ける。この難所を登りきると傾斜は緩やかで尾根道は広くなりホッとする。高度1000mのこの辺りまで来ると、イワカガミの可憐な花に一週間ぶりに再会できて少し嬉しくなった。ブナの林の中を進み最後の坂を上り切るとそこが釈迦岳の山頂だった。美しいブナの自然林の中での昼食は良かったが、そのブナ林に視界が遮られて比良山系の中心に位置する釈迦岳の山頂なのに、眺望がきかないのは残念であった。

下りは、緩やかな尾根道をカラ岳方面に進み、カラ岳手前の分岐を左にとり旧リフトの釈迦駅跡方面に降りていく。等高線を斜めに横切って降りるので傾斜は緩いが、粒状に風化した花崗岩の道なので滑ってこけないように慎重に下った。やがて尾根筋に出て傾斜は少し急になるが慎重に下って行けば問題はない。高度が下がるにつれ枯れ葉の絨毯状の道になるので滑ってしりもちをつかないように注意して下った。釈迦駅跡の広場で小休止して、イン谷川の谷筋に入って数回の渡渉をすればやがて舗装道に出て旧リフト駅の横を通って出発点の駐車場にたどり着きました。歩行距離約 8.5ｋｍ、高低差約 800m、約６時間 20 分の本当に楽しい山行でした。ＣＬ，ＳＬ，それに車を出していただいたお二人に心から感謝します。

変化とスリルに富む「ワンゲル道」、赤白のつつじが花盛り　　**佐々木康治**

まだ暗い 4 時半に起床、大気は爽やか。道の駅「妹子（いもこ）の郷」で小休止。小野妹子は女性と誤解されやすいが、607 年に遣隋使として大陸に渡った官人、ひげをはやしたオジサンだ。比良は人気、イン谷口はもう既に登山者の車で埋まっている。男 6 女 6 のパーティ、26 才から 83 才までと年齢差が 57、山友会山行の新記録に違いない。登山口の丸木橋を見た時、以前登った記憶とつながった。往路の「ワンゲル道」は急勾配の山道・岩場の連続、恐怖心をごまかしながらよじ登っていく。段差が大きく足の長短がもろに関係、頂上広場のシロヤシオのもとでのランチが労苦のご褒美。下りは緩やか、みんな陽気で健脚、14：20に駐車場に無事帰着。春日八郎の「お富さん」が今日のテーマ曲、「♪生きていたとは　お**釈迦**さまでも　知らぬ仏の　お富さん　エッサオー　玄冶店（げんやだな）♪」。赤ヤシオ、白ヤシオ、ミツバツツジ、石楠花、イワカガミと花がたっぷり、ゆっくりペースで先導してくれた伊藤リーダーに感謝の拍手を送り、妹子の郷で解散しました。

頭も使った釈迦岳　　**山下隆**

今回の釈迦岳は半年前から登ることに決めていた。年間計画立案時点で福井合宿登山の帰り道に釈迦岳に登れば効率的であったから。又、フラワーロードでは目玉のシロヤシオを堪能したかった。こじつけだが４月末にはすぐ隣の堂満岳で赤組のシャクナゲの応援に参加したので、今回は白組の応援に行かないと釈迦岳に失礼ではないかとの思いもあった。と思いきや、夏山のトレーニングでは又近くの八雲ヶ原・北比良峠が計画されている。近くの山々に全部ご挨拶が出来ることになる。これぞお釈迦様のお導きか。

久しぶりの大津ワンゲル道からのアプローチの登山道の雰囲気は忘却の彼方にあり、想定外に荒れていて短い脚を励まさないとならない段差も沢山あり、CL には何度も手を借りたり、後半ではツリの前ぶれもあり薬のお世話になる。足元に気を取られる難路ではつい　頭上への配慮が不足し、大小３回も頭突きに合う。一度は大事な頭に軽い傷がつき凸凹となる。もともと我が頭上には安全帯がすくないのに！　こんなに頭を使った登山は記憶になく、ヘルメットが必要だったと反省。無事に登りつめた頂上付近は狭い堂満岳と違い、なだらかな広場で新芽が出たばかりの柔らかい林が迎えてくれて気分爽快！！　難路を登った疲れを忘れる幸せタイム。満開のシロヤシオの下で４５分間のゆったり休憩もうれしかった。車山行になったおかげでのゆとり登山を実現してくれた車提供のお二人さん、赤・白　両方の CL の I さんに感謝です。頭の凸凹は翌日には収まりました。中身までは影響無かったと思っています。

「シロヤシオに会いに」　　日野れい子

ヤシオという聞きなれない名前を初めて知ったのは、数年前、加茂か笠置かの山林だったと思います。

その時は、遠く木の枝に咲いてる白っぽい花を遠目で説明を受けたくらいでした。今回の釈迦岳は数えきれないほどの木々たちで、花の時期もちょうどよく、それも近くで手に取ったり、触ったり葉っぱの様子を確認したり、接触型観察ができたのです。新緑とともに白い花を眺めるのは清々しいです。木の根元には実生の苗も多く育っていて、たくましさも感じるシロヤシオでした。

１０００ｍの春山となると、景色はふもとから順番に変化して行って、登るごとに春が浅く新緑は生まれたての色になり、ヤマツツジ、イワカガミなどの花も残っていて、皆を楽しませてくれました。ベニドウダン、サラサドウダンも教えていただかなかったら、そのまま通り過ぎそうな小さな木の花でした。

最近、都合がつかなかったり、体調がすぐれなかったりで、岩場もある山らしい山は久しぶりでした。

初ストック体験でしたが、ひざにやさしく、私には必需アイテムでした。ストックをリュックにしまっての、手足を伸ばしてよじ登る岩場では四足歩行だった頃の記憶が蘇る感じがしてしまいます。

春山トレの一般参加の若者は、ふわりと倒木を越え、軽々と急登を進むその身のこなしは若さだけではなさそう。

ピンクのリュックの CL さん、笑顔で見守る SL さん、ピックアップして皆さんを運んでくださったドライバーさん、写真をすぐ送って下さったり、ワンチームならではの皆さんの個性の発揮の仕方、いい一日でした。ありがとうございました。